〒602-8580　京都市上京区新町上立売西入ル西大路町
TEL075-251-3185　©同志社大学体育会機関紙
Doshisha Sports アトム
令和４年（2022）　春季結果号
07/06 水曜日
http://doshisha-atom.net/
発行人　前川玲奈
編集人　田組菜月

16年ぶりの快進撃

天皇杯出場

同志社アトム

サッカー部男子

名古屋組

夢の大舞台へ

2面フェンシング他

3面硬式野球

4面ソフト女子他

5面体操他

裏面陸上

同志社 2（2-1 0-0）1 京産大

前半 10 分【同志社】　前半 27 分【京産大】
後半 36 分【同志社】

▲試合後にポーズをとる選手たち（画像提供・サッカー部男子）
得点を決めた東【切り込み写真】
左・喜び合う鹿取（商１）、右・東

◇東　駿

（ひがし・しゅん）
２０００年7月 28 日生まれ。静岡学園高校出身（清水エスパルスユース）。ポジションはＦＷ。１８３㌢・73㌔。神学部４年。

◆サッカー部男子◆5月7日◆京都ＦＡカップ２０２２第27回京都サッカー選手権決勝大会◆対京産大◆於・サンガスタジアムｂｙＫＹＯＣＥＲＡ（京都府）◆再起を目指し、練習を重ねてきた。苦しい試合が予想された決勝戦は序盤からアグレッシブなサッカーを全面に出し、ゴールを狙う。先制点を挙げることに成功したが、京産大のカウンターを止められず振り出しに戻された。だが、チームの組織力で相手を圧倒し、追加点をもぎ取る。終始入れ替わり立ち替わりの激しい試合を制し、天皇杯への切符をつかみ取った。今後も同志社イレブンの活躍から目が離せない。

決死の覚悟を持ち挑んだ決勝戦

序開

天皇杯出場が懸かる今大会。スタジアムは異様な雰囲気に包まれていた。試合開始のホイッスルが鳴ると、選手たちは緊張の糸がほぐれたようにスムーズなパス回しで試合を進める。出だしから力強いプレスで相手にプレッシャーを与え続けた。

前半10分、東のショートプレスからＧＫのミスを誘い、先制に成功。「アグレッシブにプレーすることは常に意識していた」東とチームに流れをもたらした。このまま点差を広げたい同志社だったが、京産大の流れるようなカウンターに翻弄（ほんろう）され、フリーキックを与えてしまう。このセットプレーから守備の穴を突かれ、失点を許した。

ゲームを振り出しに戻された選手たちに慌てる様子はなかった。前半36分、小池から上げられた際どいクロスに相手ＧＫはボールを取りこぼす。その隙を本田（経2）が見逃さずに蹴り込み、ゴールネットを揺らした。追加点を獲得し、その後も勢いそのままに攻め続けながらず前半を終えた。

持続

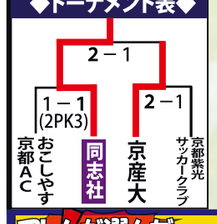
チーム一丸となり、勝利を目指す後半戦。試合は前半同様、攻守が頻繁に入れ替わる。前線でボールを失うと、一瞬のうちに自陣ゴール前までラインを下げられ、ピンチを招いた。しかし、ゲームキャプテン小池が声を掛け続け、ディフェンスラインを統率する。また、ＧＫ波多野（スポ1）の好セーブもあり、後半は相手に得点を与えなかった。その後も同志社イレブンは、チームの総合力で相手を上回り、ＦＡカップ優勝。16年ぶり10回目の天皇杯出場を成し遂げた瞬間だった。

前途

天皇杯2回戦では、Ｊ1に所属する名古屋グランパスと対戦し敗北。しかし、全国という大舞台で爪痕を残した選手たちの表情は、希望に満ちていた。

天皇杯を終え、小川コーチは「選手たちは１００％以上の力を出してくれた」と振り返り、選手を褒めたたえた。この経験を糧に今後のリーグ戦でも勝利を目指し、再び全国の舞台で輝きを放つに違いない。【西田雄哉】

◆トーナメント表◆



接戦制し京都府代表に返り咲いた

格上に対抗

16年ぶり10度目の天皇杯出場を果たした同志社イレブン。初戦は福井ユナイテッドＦＣと戦った。

序盤から相手ボックス内に侵入し、チャンスを何度も演出。だがゴールは決まらず、両者無得点のまま後半戦へともつれ込んだ。一進一退の中、迎えた後半21分。華麗なパスワークで敵陣に攻め込むと、長坂（スポ４）が相手の隙を突きシュートを決めた。貴重な１点を守り抜き、１－０で勝利。１９８１年度以来41年ぶりの初戦突破を達成した。

勢いそのまま挑んだＪ１名古屋グランパスとの２回戦。アウェイ感が漂う中、果敢にボールを奪いに行く。前半は粘りに粘り０－０で折り返したものの、後半に２点を奪われ敗北。創部史上初のＪ１チームから白星を挙げることはできなかった。

「まだまだチームの挑戦は始まったばかり」（岩岸）。格上相手にも怯まないアグレッシブなサッカーを披露し、相手サポーターまでもが彼らの健闘をたたえた。夢舞台で得た自信を胸に、さらなる挑戦へと突き進む。

シュートする岩岸（商４）

アトムが選んだ 春の活躍選手

MF 國府田駿（こうだ・たかし）
生粋のドリブラー。試合中はボールをこねながらキープし続ける。至る所でチャンスを演出し、得点に貢献。

FW 長坂大陸（ながさか・りく）
ゴールへの嗅覚が誰よりも鋭く、得点シーンによく絡む。１回戦で貴重な先制点を決めたヒーロー。

GK 小山智仁（こやま・ともひと）
１回戦はベンチ、２回戦はＧＫとして出場。チームに明るく声を掛け、全体の士気を高め続けた。

チームを支える要

負った主将岩岸に代わり、ＦＡカップ決勝戦からゲームキャプテンを務めた小池。

「キャプテンマークを譲り受け、責任感が大きく辛かった」と語るも、重圧を感じさせない華麗な試合運びで悲願の全国大会出場へ導く。キャプテンがいない中でも自身のキャプテンシーでメンバーをまとめ、部員全員でゴールを狙った。中軸として活躍し、岩岸が復活を遂げた天皇杯２回戦まで順調に勝ち進むことに成功。主将を不在とする苦しい期間を乗り越え、精神面でも成長を遂げた。

部活動以外でも普段から仲のよさが垣間見える２人。「キャプテンが抱え込むタイプだから責任を軽減してあげたい」。チームだけでなくキャプテンも支え、幾多の面から部に貢献した。幹部の信頼関係があってこそ出場できた大舞台。このまま春季リーグ戦を上位で勝ち進み、残り２つの全国の切符をつかみ取れ。

ボールを運ぶ小池（法４）

レイアウト　伊藤　千遥

YOUR Life Station
毎週火曜日の整形外科外来は
同志社大学スポーツ健康科学部教授の
北條 達也 先生が診察を
担当されています
石鎚会は、同志社アスリートを応援しています！
医療法人社団 石鎚会
救急告示病院　臨床研修協力病院
京都田辺中央病院
TEL.0774-63-1111
〒610-0334
京都府京田辺市田辺中央六丁目1-6
（近鉄新田辺駅から徒歩１分 JR京田辺駅から徒歩３分）
https://www.sekitetsukai.kyoto
石鎚会facebookページはこちら

スマホ対応
過去紙面掲載
広告募集中
HP リニューアル＆再開しました
CHECK
同志社スポーツアトム
official web site 編集局

昨年の雪辱果たしつかみ取った 関西王者 フェンシング部 7年ぶり総合優勝

「次に伸びしろを残したよい試合だった」（田中）

◆田中風舞（たなか・ふうま）2000年11月15日生まれ。京都府・龍谷大学付属平安高校出身。種目はフルーレ。経済学部4年。

アタックする田中【切り込み写真】ガッツポーズをする

◆フェンシング部◆4月23日～5月14日◆令和4年度関西学生フェンシングリーグ戦◆大山崎町体育館（京都府）他◆若き剣士たちの努力が実り、計3種目で総合優勝を果たした。フルーレでは繊細なアタックで大差をつけ、優勝をつかむ。続くサーブルとエペでは、どちらも3勝2敗で準優勝を獲得した。昨年の雪辱を果たし、男子団体が7年ぶりに関西王者を奪取。勢いそのまま、剣さばきに磨きをかける。

圧倒

フルーレ、サーブル、エペ計3種目で総合優勝。7年ぶりに関西王者の座を勝ち取った。

「メンバーを柔軟に使いながら団体戦をできたのがよかった」（田中）。初日に行われた種目はフルーレ。繊細なアタックを決め、3連続で勝利を収める。最終戦は44―45で初黒星を喫したが、結果は4勝1敗。厚い選手層と団結力で朝日大戦で、快進撃を遂げた。最終9セット目、エース宮川がビストに立つ。残り1分、3点の差に焦りを感じ、最後の0・1秒まで攻撃の手を緩めない。同点まで追い付き、延長戦へともつれ込んだ。

仲間からの応援を一心に受け挑んだ一本勝負。先にランプをともしたのは宮川だった。ブザーとともに駆け寄る選手たち。力一杯抱き合い、歓喜の声をピストに響かせた。

昨春に惜しくも届かなかった関西の頂点。「今年こそ僕らの代で（優勝を）取りたいという思いがあったので素直にうれしいです」（田中）。一丸となって実力を発揮した剣士たちの努力が実った瞬間だった。今大会の結果を自信に変えた彼らの成長はまだまだ止まらない。次の大会に向け稽古に励み、さらなる向上を図る。

【大久保りんか】

飛躍

これまで互角の戦いだった対朝日大戦で、快進撃を遂げた。最終9セット目、エース宮川（スポ4）がビストに立つ。残り1分、3点の差に焦りを感じ、最後の0・1秒まで攻撃の手を緩めない。同点まで追い付き、延長戦へともつれ込んだ。

仲間からの応援を一心に受け挑んだ一本勝負。先にランプをともしたのは宮川だった。ブザーとともに駆け寄る選手たち。力一杯抱き合い、歓喜の声をピストに響かせた。

昨春に惜しくも届かなかった関西の頂点。「今年こそ僕らの代で（優勝を）取りたいという思いがあったので素直にうれしいです」（田中）。一丸となって実力を発揮した剣士たちの努力が実った瞬間だった。今大会の結果を自信に変えた彼らの成長はまだまだ止まらない。次の大会に向け稽古に励み、さらなる向上を図る。

【大久保りんか】

◆春季リーグ戦総合順位表◆

順	学校名	フルーレ	サーブル	エペ	合計
①	同志社	7	5	5	17
②	愛知工大	3	4	7	14
③	朝日大	4	7	2	13
④	立命大	5	3	4	12
⑤	関学大	2	1	3	6
⑥	関　大	1	2	1	4

新戦力台頭

ルーキーが初の公式戦で実力を見せつけた。男子フルーレ新人戦では中垣（スポ1）が3位入賞。さらに、女子エペでは松本が優勝を成し遂げた。

楽しむことを第一の目標に掲げ臨んだ中垣。順調に勝ち進むも相手に押され、準決勝で敗北を喫した。しかし、3位決定戦では自分のプレーを貫く。「やりたいことがたくさんできた」。堅実に得点を重ね、10－6で勝利。3位入賞を果たした。

一方の松本は、プール戦を全勝しトーナメント戦へ。シード権を得て決勝へ進むと、盤石の剣さばきで相手を寄せ付けず、10－6で快勝。「決勝は緊張なくプレーできたかなと思います」。予選1位通過のプレッシャーをものともせず、頂点をつかんだ。

新人戦で結果を残した両選手。チームの主力としてさらなる飛躍を遂げる。

◆新人戦女子エペ最終順位◆

順	氏　名	大　学
①	松本　璃音	同志社
②	新谷　理彩	朝日大
③	下地　雪乃	龍谷大
④	竹内　湖都	京　大
⑤	一藤木由香	立命大
⑥	光本　妃那	中京大
⑦	水上　葉月	阪　大

チャンスをうかがう松本（商1）

準硬式野球部 全国で真価示せ

佐伯奨哉（さえき・しょうや）2000年7月7日生まれ。岐阜県・中京高校出身。ポジションは投手。右投げ。スポーツ健康科学部4年。

◆準硬式野球部◆3月17日～4月30日◆令和4年度関西六大学準硬式野球連盟春季リーグ戦◆於・わかさスタジアム京都他

春季リーグ連覇、その先にある日本一へ。常に言葉にしてきた目標を達成すべく、真鍋組の挑戦は始まった。

開幕戦は劇的な試合だった。不動のエース佐伯が先発を務めるが、重圧と緊張から制球が定まらず7回を投げ5失点。敗色ムードが漂ったものの、打線が8回に一挙4点を奪い、逆転勝利を収める。そのまま苦しい試合は続き、格下相手にも厳しい戦いを強いられた。対神戸大2回戦では9回に2点差を跳ね返す逆転勝ち。続く対阪大1回戦でも1点差勝利と課題を残したが、6連勝を飾り、昨春王者の意地を見せた。

最終節を終えてリーグ制覇の可能性を残したのは同志社と関学大。直接対決で雌雄を決することとなった。迎えた最終決戦。1点をリードして9回裏に突入する。しかし、同点に追い付かれると、2死満塁から竹本（文情3）が投じた球は無情にもセンター前へ。まさかのサヨナラ負けで、春季リーグ連覇を逃した。

それでも、その後の関西地区大学予選トーナメント大会を勝ち抜き、全日本選手権大会の出場権を獲得。「日本一で恩返しをする」（佐伯）。初戦で敗れた昨年の借りを返し、2年連続となる全国の舞台で真価を示す。

喜ぶ選手たち【切り込み写真】好投を見せる佐伯

◆春季リーグ対戦結果◆

月・日	対戦校	結果
3・17	関　大	7○6
24	神戸大	8○1
25	〃	7○5
31	阪　大	3○2
4・1	〃	10○0
14	立命大	4○2
15	〃	2●10
21	関　大	6○1
25	関学大	5○1
26	〃	0●2
30	〃	4●5

8勝3敗リーグ2位

バドミントン部 孝

◆バドミントン部◆5月14日～6月5日◆令和4年度関西学生バドミントン選手権大会◆於・京都市体育館他

決勝戦は同校対決となり、山部（商4）・藤本（スポ3）ペアが悲願の栄光をつかんだ。

第1ゲームから互角の試合を繰り広げるも、熟練ペアが意地を見せる。藤本のクロスカットと山部のスマッシュがさえ渡り、第1ゲームを先取した。続く第2ゲームも付け入る隙を与えない。終盤に一挙4連続ポイントを奪い、ストレートで快勝した。

「悔いの無いように笑って終えたい」（山部）。昨年のインカレベスト16を超えるべく、新たなる挑戦が幕を開ける。

◆決勝戦試合結果◆

山部・藤本ペア	2	{21-15, 21-14}	0	播磨・東ペア

ラグビー部

◆ラグビー部◆5月5日◆同志社ラグビー祭◆対京産大1年生◆於・宝ヶ池公園球技場（京都府）

期待の新星がルで対抗。最後まデビュー戦で輝きでリードを守り抜を放った。序盤かき、56―43でノら石田（スポ1）とサイドを迎えた。大島（スポ1）のハーフ団がランと「期待を持てる試パスで躍動。経験豊富な2人がラインを統率し、レギュラー争いを活性化させる彼らの今後に注目だ。

宮本監督は、「合でした」と新戦力の台頭を評価。ルーキーさながらの展開ラグビーを体現する。

後半は留学生中心に反撃を試みる京産大に対し、足元に刺さるタック

同		京
4	TGP	3
0		0
28	前	19
4	TGP	4
0		2
28	後	24
56	計	43

同志社	
56	
28	28
24	19
43	京産大

卓球部 4年ぶり王座 実りある準優勝

真剣な表情を見せる左・田口（社1）、右・富澤（経2）

◆卓球部◆4月30日～5月8日◆令和4年度関西学生卓球春季リーグ戦◆於・YMIアリーナ（滋賀県）他

3シーズンぶりに開催されたリーグ戦。関西の強豪がひしめく中で男女ともに躍動し、同志社の名をとどろかせた。

女子は無敗でリーグ戦を勝ち進み、最終日は前回の春季リーグ戦で優勝校の関学大と対戦。2―1で登場したのはこれまで全勝の津田（社3）・三浦ペアだった。フルセットまで互角の戦いだった対山本（商4）は誇らしげな表情を見せた。好成績を収め、新たなスタートを切った卓球部。今大会で高まった団結力で、新たな歴史を刻め。

レシーブをする三浦（商3）

◆春季1部リーグ戦順位表◆

順	学校名	勝	負	得点
①	同志社	7	0	14
②	神戸薬大	6	1	13
③	立命大	5	2	12
④	関学大	4	3	11
⑤	龍谷大	3	4	10

◆春季1部リーグ戦順位表◆

順	学校名	勝	負	得点
①	関学大	7	0	14
②	同志社	5	2	12
③	龍谷大	5	2	12
④	近畿大	4	3	11
⑤	立命大	4	3	11

レイアウト　齋藤栄里花

同志社 田辺キャンパス から 約3分!
同志社女子大
駅前申込所
JR同志社前駅
同志社大学
送迎バス 毎時3便
三山木駅
●当校

山城田辺自動車学校
京都府京田辺市普賢寺中島4-9　TEL 0774-63-6600

Twitter 随時更新中！@atom_doshisha
速報

企画

号外

告知

最下位相手に連敗

春終了

流した涙忘れず 青地 紅秋でリベンジ果たせ

硬式野球部

涙を流す青地
【切り込み写真】声援を送る部員たち（撮影・丸山潤一郎）

期待の新戦力

大学初のリーグ戦で存在感を放ったルーキーたち。攻守で奮闘し、確かな爪痕を残した。

1年生ながらスタメンに抜てきされた堀内。先頭打者としてチームを勢いづけただけでなく、俊足を生かした広範囲にわたる守備でも健闘した。

2人目は、パワフルなバッティングが武器の細江。対関学大2回戦では代打として出場した。「ガンガンいってやろう」と気合十分で打席に立つと、力強いスイングでセンター前ヒットを放つ。今後も長打に期待がかかるルーキーだ。

最後は、対近大2回戦でスタメン出場した中森。追加点が欲しい場面で中適時打を放ち、持ち前の勝負強さを見せつけた。

快進撃の裏側には新星たちの目覚ましい活躍があった。秋季リーグ戦でもチームに貢献し、実力を見せつけろ。

細江（スポ1）

中森（法1）

堀内（法1）

◆同志社の春季リーグ戦績◆

月・日	試合相手	点数	結
4・9	関学大	1－0	勝
10	関学大	5－1	勝
16	京大	2－0	勝
17	京大	9－0	勝
22	近大	1－2	負
23	近大	5－1	勝
5・7	近大	5－0	勝
14	関大	2－0	勝
15	関大	0－7	負
16	関大	7－0	勝
21	立命大	0－1	負
22	立命大	0－2	負

2022 DOSHISHA HEROES
born to be ONE ～全てを懸けて～

硬式野球部◆4月9日～5月22日◆関西学生野球連盟春季リーグ戦◆主将に就任した青地の下でチーム改革を進め、序盤から快進撃を続けた。一度も勝ち点を落とすことなく迎えた同立戦。2勝すれば優勝が決まるという状況で、痛恨の連敗を喫する。勝ち点4で並んだ近大に勝率の差で下回り、全国大会出場を逃した。春に流した涙を糧とし、秋へと生かす。

快進撃

昨秋は4位に終わり、雪辱を誓った今季。主将青地を中心に改革が始まった。青地は、「昨年まではベンチ内でもどこか集中力が分散している雰囲気があった」とチームの課題を分析。今季は4年生が中心となり、1つのボールに集中するという意識を全体に植え付けた。全員がひとつとなり、全てを懸けて全国大会出場を目指す。この目標を胸にリーグ戦へと挑んだ。

序盤から開幕4連勝を達成し、最高のスタートダッシュを切った。第4節、優勝候補と評される近大との首位攻防戦。初戦こそ白星を逃すも、その後2連勝で首位に浮上する。対関大戦も2勝1敗で乗り切り、一度も勝ち点を落とすことなく最終節を迎えた。

同立戦

2勝以上で11年ぶりの全国大会出場が決まる同立戦。栄冠をつかむ瞬間をともに過ごすべく、スタンドには大勢の観客が駆け付けた。

しかし、初戦は1－0で完封負けを喫する。負ければ自力優勝の可能性が消滅してしまう2戦目。同点の8回に小倉(経4)が痛恨の2ランホームランを浴びる。反撃したい打線もわずか2安打と大一番で振るわず。目の前に迫った優勝の座を自らの力でつかむことはできなかった。

「実力がなければ勝ち点4は取れない。プレッシャーです」。試合後、花野監督はこう振り返った。8勝4敗の勝ち点4で春季リーグ戦を終えた青地組。勝ち点で並んでいた近大が翌日の試合で京大に勝利。この結果、勝率差の関係でシーズンを2位で終えた。

悔し涙

今季は昨季までとは見違えるような姿を見せた。試合中の声出しや、控え選手によるサポート。全員が一丸となり、神宮出場という目標に向け全力を尽くした。しかし、同立戦では投打がかみ合わず、全てがうまくいかなかった。

「優勝決定戦で負けるという悔しい思いをした。気持ちを強く持って練習することを明確な目標にしたい」(青地)。春に流した悔し涙を、秋こそ歓喜の涙へ。青地組の新たな挑戦は既に始まっている。【清水幸正】

タイトル獲得

選手おのおのの活躍が評価される個人賞。受賞を目標とする選手は多く、時にはチームメートもライバルとして立ちはだかる。同志社からは投手の髙橋と外野手の杉浦が選出された。

驚異の防御率0・60をたたき出し、最優秀投手賞に選ばれたエース髙橋。優勝校以外からの選出は20季ぶりだ。最速152㌔の直球で相手打者に隙を与えず、5勝2敗の好成績を記録。レベルの高い投手陣が多い中、存在感を放った。

一方、杉浦は首位打者とベストナインのダブル受賞。打率・400で、青地に続き本校から2季連続の首位打者選出となった。持ち前の俊足を生かし、今季最多の18安打を記録。さらに、大学日本代表候補選手強化合宿のメンバーにも抜てきされた。

攻守ともに秀逸ぞろいの青地組。秋は2人を筆頭に、全国への道を切り開く。

表彰された左・髙橋（スポ4）
右・杉浦（商4）

青地斗舞（あおち・とうま）

2000年5月4日生まれ。大阪桐蔭高校出身。今年度硬式野球部の主将を務める。左投げ・左打ち。ポジションは外野手。173㌢・76㌔。スポーツ健康科学部4年。

レイアウト　待鳥　桜子

同志社スポーツユニオン
体育会51クラブのOB・OGから組織されています
同志社スポーツユニオンは同志社アスリートを支援、応援致します！
http://www.doshisha-su.com/
○ウェブサイトを通じて同志社スポーツを応援しましょう！
○新年度　ウェブサポーター　募集中！
お申込み・お問い合わせ
〒610-0394
京田辺市多々羅都谷1-3
同志社スポーツユニオン事務局
TEL：0774-65-7418　FAX：0774-65-7416
E-Mail：jt-1spor@mail.doshisha.ac.jp

紙器用板紙全般
大和板紙株式会社
DAIWA ITAGAMI
代表取締役社長
北村貴則
（平成5年度商学部卒業）
本社工場　〒582-0004 大阪府柏原市河原町5-32
電話　柏原(0729)71-1445 代表
FAX(0729)71-1449

私たちは大学部活動を応援しています。
STAR FORM
starform.jp

次号予告
夏季結果号
ぜひお手に取ってご覧ください！

総力戦で手にした勝利

全国出場

山口組

女子ソフト

生駒奈々（いこま・なな）
2002年11月14日生まれ。岡山県・創志学園高校出身。156㌢。ポジションはファースト。スポーツ健康科学部2年。

◆ソフトボール部女子◆5月5日◆第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会近畿予選会◆於・園田学園女子大学グラウンド（大阪府）◆インカレ出場を懸けた大一番。快挙達成に向け、負けられない戦いが始まった。弓納持（商4）の先制ホームランで弾みをつけると、7回にも一挙3点を追加する。攻撃陣の活躍に応え、先発和田（スポ3）も気迫の投球で完封勝ち。全国への切符をつかんだ。

苦境

勝利の女神がほほ笑んだ。ラストバッターを遊ゴロに抑えると、満面の笑みで喜びをあらわにする選手たち。「本当によかった、その一言です」（山口・スポ4）。涙を流す仲間と肩を抱き合った。

リーグ優勝を目標に始動した山口組。だが、思い描いていた試合展開ができず、白星から遠ざかる日々が続いた。課題だった攻撃面で苦しみ、点が入らない。エース和田のピッチングも不調に陥り、黒星が並んだ。結果、7戦5敗でまさかの1部6位。インカレ出場が決まる4位以内に滑り込めず、決定戦へと挑んだ。

結実

運命の対戦相手は2部1位の立命大。1部のプライドを懸け、絶対に負けることはできない。熱気が立ち込める中、戦いの火蓋が切られた。

試合が動いたのは2回表。4番山口が3球目を痛烈に弾き返すと、球速を落とすことなく右横を抜けた。その間に一気に三塁へと進み、チャンスを演出する。この好機に弓納持が打席に立つと、相手の投じた初球をフルスイング。右スタンドに2ランを放りこみ、先制点を挙げた。「リーグ戦でなかなか打てなかった分をここで取り返せてよかった」。弓納持の痛快な一打で流れを引き寄せ、同志社ペースで試合が進む。終盤に差し掛かった7回表、焦りから相手がミスを連発する。チームはこのチャンスを見逃さず、一挙3点を追加し立命大を引き離した。

先発和田も力投で相手打線を封じ込めていく。その調子は落ちることなく、6回までに許した安打はわずか1本。そして最終回を迎えた。テンポよく連続三振に斬って取り、残すは1アウト。「ここで負けたら終わり。不安がっていても仕方ないから、やるしかないと思った」（和田）。力強い球でショートゴロに仕留め、完封勝利を挙げた。

全国

「緊張して眠れなかった」（山口）。背中にのしかかった重圧。しかし、彼女たちはプレーを楽しむ気持ちを忘れていなかった。プレッシャーをはねのけ、勝ち取ったインカレ出場権。チームが目指す全国制覇に向け、ここで歩みを止めるわけにはいかない。全国の舞台で勝利の花を咲かせろ。【和泉明日菜】

創部史上初の快挙成し遂げた

歓喜する生駒【切り込み写真】試合後、笑顔を見せる選手たち

新進気鋭の投手降臨

力投する櫻田

◆櫻田采音（さくらだ・あやね）
2003年12月10日生まれ。鳥取城北高校出身。154㌢。ポジションはピッチャー。スポーツ健康科学部1年。

小柄な体格からは想像もつかない力強いピッチングで敵を圧倒した櫻田。1年生から頭角を現し、新鋭として期待が寄せられる。

春季リーグ開幕戦対神戸親和女大では、先発を任されたエース和田に代わり大学初登板を果たす。同点で迎えた5回表。プレッシャーがかかる場面で好投を見せ、3イニングと1／3を無失点に抑える。「初登板だったが、あの場面で自信を持ってピッチャーを交代できた」（杉原監督）。監督の起用に応えるピッチングで実力を発揮した。

今リーグで不調が続いた和田に代わって幾度もマウンドに立ち、インカレ出場に貢献。ぶれないスピードと球の重さは、チーム全体の戦力の幅を広げた。

全国の舞台で躍動するには、これまで以上の努力が不可欠だ。勢いを加速させ、ルーキー櫻田が山口組に新たな風を吹かせる。

アーチェリー部

◆4月3日～5月8日◆男子第62回・女子第57回関西学生アーチェリーリーグ戦◆於・同志社大学京田辺キャンパス洋弓場（京都府）他

絶対王者近大を下すことを見据えて挑んだ春。健闘及ばず悔しさが残った。

男女ともに4戦負けなしだったが、男子は最終戦で関大に敗北。頂上決戦に臨んだのは女子のみとなった。

迎えた女子優勝決定戦。出だしから武内（スポ3）を除く全員が50点を切る。突破口を開けないまま、完敗を喫した。

男子は14大会ぶりにブロック優勝を逃し、女子は対近大戦で166点差。「気持ちをつくり直して、チームづくりを頑張っていきたい」（塚田・スポ4）。雪辱を果たすためにも、勝ち切れるチームを目指す。

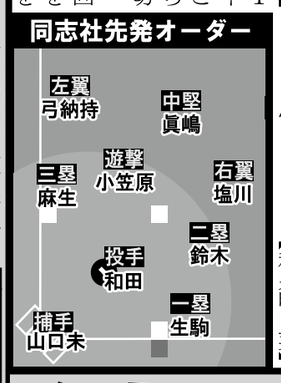
◆男子リーグ戦績表◆

試合	対戦校	スコア
1	神戸学院大	3248〇2911
2	立命大	3228〇2814
3	京大	3251〇3010
4	甲南大	3237〇 0
5	関大	3200●3205

◆女子リーグ戦績表◆

試合	対戦校	スコア
1	神戸大	1987〇1676
2	立命大	1880〇1701
3	関学大	1955〇1826
4	梅花女大	1962〇1751
5	甲南女大	1986〇1925
優勝決定戦	近大	1777●1943

同志社先発オーダー



強豪の意地見せる

◆射撃部◆4月29日～5月1日◆2022年度関西学生スポーツ射撃選手権春季大会◆於・能勢町ライフル射撃場（大阪府）

緊迫する試合を制し、優勝と準優勝を独占。今年も強豪校としての意地を見せつけた。

中川友、目羅（スポ4）、饒平名（社4）、山森（社3）、近藤（文4）が本選を突破し、FINALに進出。関西を制したのは、中川友だった。1姿勢目の膝射は8人中4位と振るわなかったが、伏射では3位まで順位を上げる。流れをつかみ、立射では瞬く間に1位に君臨。勢いそのままシングルショットで10点台をたたき出し、最後は目羅との一騎打ちとなった。

同チーム内での首位争いに緊張感が漂う。運命の一発に注目が集まった。「緊張したが、最後の一発は負けたくないと思って撃った」（中川友）。言葉通りの一撃で引き離し、総合得点わずか1点差で頂点に立った。饒平名も引けを取らず膝射、伏射ともに1位を獲得するが、シングルショットで粘れず4位入賞。山森もシングルショットで10点台を出すが、総合得点であと1歩届かず5位入賞で終えた。

全メンバーがトップ争いに加わり、白熱した一戦となった。次なる目標のインカレ優勝を目指しチーム全員で切削琢磨（せっさたくま）する。夢に向かって走り続ける彼女たちの勢いはとどまるところを知らない。

ライフルを構える中川【切り込み写真】笑顔を見せる

◆中川友香梨（なかがわ・ゆかり）
2000年12月21日生まれ。京都府立園部高校出身。156㌢。文学部4年。

◆50㍍ライフル女子3姿勢60発競技順位表◆

順	選手名	所属	Kneeling	Prone	Standing	Total
①	中川友香梨	同志社	142.6	152.2	146.9	441.7
②	目羅　渚	同志社	145.3	147.6	147.8	440.7
③	大鍬　菜月	立命大	146.5	151.1	133.9	431.5
④	饒平名アリス	同志社	148.0	151.2	120.7	419.9
⑤	山森　月乃	同志社	142.8	147.7	116.9	407.4

日本拳法部

◆5月22日◆第22回京都府民大会及び第53回京都学生拳法リーグ戦◆於・京都府立伏見港公園総合体育館

段外の部で石原（理工2）、参段以上の部で新垣（商3）が優勝。若手2人の健闘がチームの士気を高めた。

ベスト8に終わった西日本大会の悔しさを胸に臨んだ今大会。両者ともに1、2回戦を2本先取し、順調に駒を進めた。先に決勝の舞台に上がったのは石原。開始20秒で押面を決め、頂点に立つ。続く新垣も接戦から延長戦に持ち込み、面付きで勝負をつけた。

個人戦の手応えを自信につなげ、団体戦関西制覇へ。「優勝できたのはうれしいが、まだ課題はある」（新垣）。現状に満足せず、自身の技術を磨き上げる。

◆入賞者一覧◆

優勝	男子参段以上の部	新垣颯太
	男子段外の部	石原充稀
ベスト4	男子段外の部	山中健登

中西関西2連覇

◆ソフトテニス部◆4月9・10日◆令和4年度関西学生ソフトテニスシングルス選手権大会◆於・マリンテニスパーク・北村（大阪府）

連覇を果たすべく臨んだ今大会。関西の強豪たちがひしめく中、中西が悲願の優勝を成し遂げた。

緊張感が張り詰めたコートで試合が開始。初日は2戦ともストレートで勝利を収め、前回王者の実力を見せた。2日目は初戦を完封するも、次戦で初めてゲームを落とす。しかし、粘りを見せG4―2で白星を飾った。その後は6回戦、7回戦と順調に駒を進め、準決勝に進出。ライバル下原（関学大）を下し、決勝に進んだ。

会場にいる全選手が見守る中、最終戦が始まった。序盤からバックアウトで失点を重ね、1ゲーム目を献上。しかし、2ゲーム目では強烈なサーブでミスを誘い、1ゲームを取り返した。その後も一進一退の攻防が繰り広げられ、ファイナルゲームまでもつれ込む。先制点を与えるも敵のミスが連発し3―1で逆転に成功。しかし、隙を突く秀逸なテクニックに翻弄（ほんろう）され、ゲームを振り出しに戻されてしまう。両者一歩も譲らない激戦が繰り広げられる中、安定したストロークで3ポイントを連続奪取。巧妙な打球を決め、G4―3で最終試合を終えた。

「とにかくうれしい」。安堵（あんど）の表情を浮かべ、トロフィーを掲げた。連覇という重圧の中、王座を死守。手ごわい敵にも屈することなく快挙を遂げた。あらゆる局面で冷静に対処し、確実に成績を残す中西の今後から目が離せない。

王者の貫禄を見せつけた

ラケットを振る中西【切り込み写真】笑顔で表彰を受ける

中西夏輝（なかにし・なつき）
2000年7月30日生まれ。大阪府・上宮高校出身。173㌢。ソフトテニス部の主将を務める。商学部4年。

◆トーナメント戦績表◆

試合	対戦相手	所属	スコア
①	不戦勝		
②	吉阪	大体大	3〇0
③	黒川	天理大	3〇0
④	野口	履正社	4〇0
⑤	高谷	立命大	4〇2
⑥	斉田	同志社	4〇0
⑦	室	近大	4〇0
準決	下原	関学大	4〇2
準決	近藤	関学大	4〇3

水泳部

◆5月21日◆第21回関西学生夏季公認記録会◆於・秋葉山公園県民水泳場（和歌山県）

本田（社4）が男子100㍍自由形で関西学生新記録タイとなる48秒67をマーク。4月の記録会の男子50㍍自由形に続き、2戦連続で新記録をたたき出した。

レース序盤から後続を引き離し、後半も失速することなくゴール。タイムが表示されると、大きな歓声が上がった。今シーズン上々の出だしについて、「試合をイメージして練習をしていることが一番大きい」と分析。日々の積み重ねが着実に結果へと結びついた。

今年の目標を「個人で日本一、チームとして総合8位」と掲げた。決戦の日まであと2カ月。全国制覇に向け、さらなるタイム向上を狙う。

◆男子100㍍自由形順位表◆

順	名前	大学名	タイム
①	本田海雅	同志社	48.67
②	泉　大雅	大体大	49.21
③	尾脇璃音	同志社	49.35
④	武田力紀	大体大	49.39
⑤	望月智裕	びわこ大	49.75
⑥	佐野健太	びわこ大	49.80

レイアウト　城山　歩美

卒業してから始まる「同志社ライフ」があります
同志社人のネットワーク、同志社校友会
国内48支部、海外24カ国36支部※1に展開する同志社校友会。その歴史は古く1885年（明治18年）の「アルムニ会」発足まで遡る卒業生団体で、これまで33万人を超える校友会員が全世界で活動しています。
※1. 2020年3月末現在

同志社校友会本部　事務局
〒602-0867 京都市上京区寺町通丸太町上ル松蔭町140-4
URL : https://www.doshisha-alumni.gr.jp

美学生図鑑

島倉欧仁 ver.39

プレー中の島倉

（しまくら・おうすけ）
2003年6月21日生まれ。新潟県・帝京長岡高校出身。ポジションはSF。180㌢・82㌔。スポーツ健康科学部1年。

籠球の貴公子

くっきりとした二重の目に、すっと通った鼻筋。そして、鍛え上げられた体と試合中の真剣なまなざしは、コートでもひときわ目を引く。また、チームの得点源として果敢にリングへ突き進む姿は周囲の人々をも魅了する。

ダイエット目的という軽い気持ちで始めたバスケットボール。しかし、才能を開花させ、高校時代にはエースの1人としてチームを全国準優勝に導いた。

趣味はチームメートの谷口(経1)と遊びに行くこと。「島倉は顔もイケメンで、性格もよくて、もうリア恋ですね」(谷口)。最近では2人で貴船神社に出かけた。また、休日には銭湯やサウナに足を運んでいる。スポーツ選手として常にコンディションを整えておくのは必須。疲労回復を早めることで、パフォーマンス向上へとつなげている。

普段は明るく面白い島倉だが、試合になると一変。ひたむきな姿勢で活躍し、ギャップを見せる。鋭い目つきでゴールを見据え、武器であるドライブと3Pシュートでチームをけん引。先日行われた関西選手権では、1年生ながら全試合スタメン出場する。3Pシュートでのバスケットカウントやスティールで、会場を沸かせた。

秋にはリーグ戦が始まる。インカレ出場を目指し定評のあるシュート力に磨きをかける島倉。華麗なシュートを見せ、コート上で笑顔を輝かせる。【番匠麻衣】

全日本王者へ弾みつけた

四の舞

王者

東本侑也

リング　18.100点

スティック　18.400点

クラブ　17.875点

ロープ　18.350点

クラブでポーズをとる東本
【切り込み写真】ロープ演技後

◆東本侑也（ひがしもと・ゆうや）
2002年11月25日生まれ。広島県・広陵高校出身。得意種目はスティック。スポーツ健康科学部2年。

◆第72回西日本学生体操選手権大会◆新体操の部◆5月24～26日◆於・スカイホール豊田（愛知県）◆東本が安定感のある演技で西日本インカレ連覇を果たした。プレッシャーをはねのけ、初日をノーミスで終える。2日目最初は昨季から作品を変えたクラブ。落下のミスがあったものの、ロープで巻き返し、西の王者の座を守った。この結果に決して満足することなく、強豪ひしめく全カレへと進む。次の目標である日本一を見据え、飛躍を誓った。

体操競技

王者への一戦

西日本の王座を守り抜いた。ロープのラストを決め、東本の表情は達成感に満ちあふれる。「過去最高の出来栄えで、個人総合優勝を確信した」。昨年王者の重圧をはねのけ、栄冠に輝いた。

結果だけでなく、自分らしい新体操を心掛け挑んだ今大会。関カレでの反省から、4種目でノーミスを意識して練習を重ねた。誇りを懸けた連覇への挑戦。リングが開幕を告げた。2つのリングを巧みに使い、難易度の高い技を次々に成功させる。抜群の表現力で観客を魅了。同種目で唯一の18点台をたたき出し、トップに躍り出た。「この種目から流れに乗れた」と、スティックでも勢いそのままに完璧な演技を披露。中盤の投げと後半の連続投げを立て続けに決めた。1日目終了時点で暫定1位。西日本制覇へと引き込まれる投げを控えた演技場である中盤。「クラブの持ち方に違和感があった」。空中に高く放ったクラブがばらけてしまい、痛恨の落下。ここまで完璧だっただけに惜しいミスとなった。しかし、長い競技経験を武器に、焦らずカバー。上手くまとめ切り、ここでも首位を守った。

最終種目を前に、屈伸をしながら大きく息を吐く。勝負のロープが始まった。開始早々の連続投げから、次々と投げを成功させる。惜しみない拍手が完璧な1分半を物語っていた。ロープでも18・350をたたき出し、他選手を圧倒。歴史に名を刻んだ。

さらなる高み

2位の選手に5点以上の差をつけて完勝。だが、結果に満足することなく、「このままでは全カレは優勝できない」と次を見据えていた。夏に待ち構えるのは全国の強者たち。西日本の覇者が誇りを胸に、さらなる栄光に向かって走りだした。【林康陽】

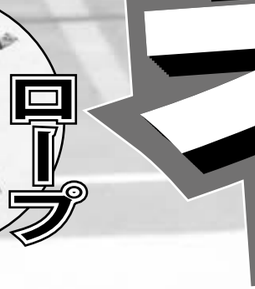
重圧との戦い

◆男子個人の部◆

順	名前	所属	総合得点
1位	東本侑也	同志社	72.725
2位	尾上達哉	花園大	67.300
⋮	⋮	⋮	⋮
20位	福島大雅	同志社	36.850
21位	山崎礼人	同志社	33.300
22位	岡本雄一郎	花園大	32.350
23位	井岡大也	同志社	24.050

期待の大型新星が鮮烈デビュー

フープ


ボール

クラブ

競技する長尾（スポ1）
リボン

「1分半を全力で演技する」(長尾)。全身全霊を懸けたパフォーマンスで存在感を放ち、準優勝をつかみ取った。

1種目目のフープでは難易度の高い技を次々と成功させ、大胆な演技で観客の視線を独占。続くボールでも球を巧みに操り、優雅な舞いを見せた。1日目終了時の順位は1位。しかし、わずか0・850点差で2位の花吉(聖和短大)が迫っていた。

トップの座を維持するべく挑んだ2日目。クラブでは魅惑的な表情と軽やかなステップを披露するも、中盤で投げが狂い、D得点が大幅に減点。一方、花吉が総合順位1位となり、王座の行方は残す1種目に託されることに。緊張感が漂う中、勝負の1分半が始まった。悪天候のため、湿気を含んだリボンは重く、徐々に手元が狂いだす。中盤、リボンが体に巻き付きリスクをすぐさま変更。最後まで粘るも、得点が伸びないまま演技を終えた。惜しくも優勝を逃したが、ルーキーながら準優勝と大きな功績を残した。全国の舞台でも堂々たる姿を見せるべく、さらなる躍進を誓う。

男子ソフトボール部

◆5月3～21日◆第54回春季関西学生ソフトボールリーグ戦◆於・サザンスタジアム(大阪府)他

「インカレ出場に向けて今まで必死にやってきたので、報われてよかった」(高橋大・文情4)。阪大に勝利し、悲願のインカレ出場を決めた。

初回、先頭打者が安打で出塁すると、相手のエラーにより2点を先制する。3回にも足を絡めた積極的な攻撃でさらにリードを広げた。

追加点を奪えず迎えた最終回。ここまで隙のないピッチングで相手打線を0に抑えてきた鶴田(商2)が打撃でも見せる。フルスイングした打球はセンターの頭上を越え、駄目押しの本塁打となった。

5－0で完全勝利を収め、目標を達成した高橋大組。全国の舞台でもその実力を遺憾なく発揮する。

◆春季リーグ戦績◆

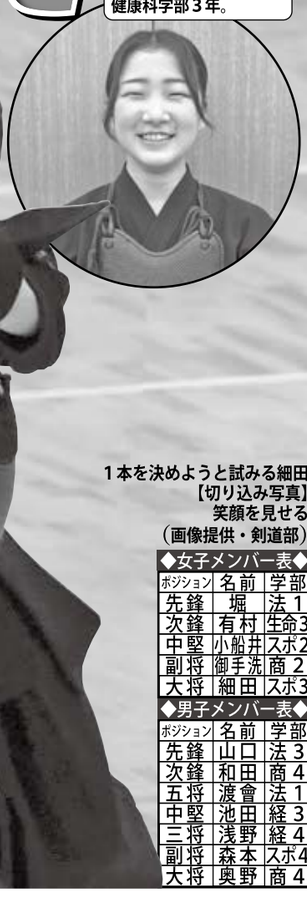
月・日	相手	結果
5・3	神戸学院大	2●7
5・4	関　大	4●5
5・4	四天王寺大	11○4
5・5	京産大	1●6
5・8	立命大	4●5
5・21	神戸大	6○2
5・15	阪　大	5○0

剣道部

◆5月28・29日◆第67回西日本学生剣道大会・第37回西日本女子学生剣道大会◆於・久留米アリーナ(福岡県)

西日本に名残した

◆細田琴里（ほそだ・ことり）
2001年12月28日生まれ。奈良大学附属高校出身。159㌢。スポーツ健康科学部3年。



1本を決めようと試みる細田【切り込み写真】笑顔を見せる（画像提供・剣道部）

男子は2位、女子は6年ぶりのベスト4を獲得。西日本に同志社の名をとどろかせた。

3年ぶりとなった今大会。初日は女子チームがコートに立った。初戦を不戦勝で勝ち進み、2回戦で中京大と対戦する。拮抗(きっこう)した試合となるが、御手洗が小手で1本勝ち。それが決勝点となり、1―0で勝利を収めた。その後も着実に勝ち、準決勝に挑んだ。創部史上初の決勝戦進出を前に立ちはだかったのは環太平洋大。ポテンシャルの高さに対応することができず、終始ペースをつかまれる展開となる。その後も力及ばず4―0で敗戦。「チームとして勝ち上がれてよかった」(細田)。強固な団結力を見せ、ベスト4をつかみ取った。

一方の男子チームは3回戦まで順調に勝ち進み、京産大との4回戦を迎える。勢いに押され、一時は劣勢に立たされるも白星を奪取。その後、準決勝も制し、連覇を懸けた鹿屋体大との決勝に臨んだ。何とか1本を奪おうと試みるが、強豪校を目の前に攻め切ることができない。「楽しむことを考えすぎていて流れを考えられなかった」(森本)。悪い流れを断ち切ることができず、2―1で敗北。優勝とはならなかったが、確かな爪痕を残した。

男女ともに健闘した剣道部。活動停止や成績が振るわなかった関西大会での悔しさを乗り越え、好成績を収めた。結果を自信に変え、次戦こそ優勝を狙う。

◆女子メンバー表◆

ポジション	名前	学部
先鋒	堀	法1
次鋒	有村	生命3
中堅	小船井	スポ2
副将	御手洗	商2
大将	細田	スポ3

◆男子メンバー表◆

ポジション	名前	学部
先鋒	山口	法3
次鋒	和田	商4
五将	渡會	法1
中堅	池田	経3
三将	浅野	経4
副将	森本	スポ4
大将	奥野	商4

軟式野球部

◆3月21日～5月31日◆関西六大学軟式野球連盟2022年度春季リーグ戦◆寝屋川公園第一野球場(大阪府)他

シーズン前にチームメート全員で志した全国の舞台。目標をかなえるべく、主将柴田(商3)を中心に円陣を組み、心を1つに。全員野球で立命大との大一番に向かった。

先発柴田の好投に応える形で打線が奮起し、2－1とリードの9回裏。完投勝利かと思われたが、相手打者に右二塁打を放たれる。火のついた立命大打線に圧倒され、2－3でサヨナラ負けを喫した。

「勝負どころで負けてしまった」(柴田)。昨年王者との差を痛感。秋季リーグ戦を見据え、チームの底上げを図る。全国大会出場を目指し、努力を続ける柴田組から目が離せない。

◆2022年度春季リーグ戦順位表◆

順	大学名	勝	敗	勝率	勝差
①	立命大	9	1	.900	
②	同志社	8	2	.800	1.0
③	大阪公大	6	4	.600	2.0
④	関学大	4	6	.400	2.0
⑤	関　大	2	8	.200	2.0
⑥	甲南大	1	9	.100	1.0

テニス部

◆5月22～28日◆2022年度関西学生春季テニストーナメント本戦◆男子ダブルス◆於・靭テニスセンター（大阪府）

快進撃見せ準優勝

シングルスの出場権を失い、悔しさをばねに臨んだ男子ダブルス本戦。岩田・渡邉ペアがノーシードから関西2位に輝いた。

3回戦では3月のトーナメント優勝ペアと対戦。勝負はスーパータイブレークへ持ち越された。激しい攻防戦が繰り広げられる中、相手ペアが先にマッチポイントを獲得する。しかし、ここで岩田のバックハンドが光った。深いボールをうまく返球し、ピンチを回避。このプレーが流れを変えるきっかけとなる。一気に攻撃を畳み掛け、逆転。14―12で最大の山場を乗り越えた。

4回戦、準決勝でも接戦をものにし、ついに決勝まで上り詰める。対するは昨年インカレ3位の実力者たち。チャレンジャーとして強気でいくことだけを考えた」(渡邉)。独特のテンポで相手を翻弄(ほんろう)し、1セットを先取する。しかし、敵がペースを取り戻すと、残る2セットを立て続けに奪われた。格上ペアに健闘するも、快進撃はここまで。1―2で敗北し、2人の挑戦は終わった。

互いの個性を生かしたプレースタイルで、例年にない躍進を遂げた。8月に控えるインカレでも、今大会で築いた絆を武器に奮闘する。

構える岩田（法4）・渡邉（法2）【切り込み写真】賞状を持つ（画像提供・テニス部）

◆大会成績◆

試合	対戦相手	所属	1set	2set	3set	結果
1R	不戦勝					
2R	久保・奥平	甲南大	7-5	6-4		2○0
3R	増成・増成	関学大	6-2	1-6	14-12	2○1
QF	藤本・秋月	甲南大	7-6(5)	6-3		2○0
SF	図師・葵	近　大	6-2	3-6	10-8	2○1
F	松田・大楠	関　大	6-3	6(5)-7	6-10	1●2

レイアウト　小島　葵

自信を胸に全国へと突き進め

関西インカレ 13秒台へ

陸上競技部 同志社アトム 勝負強さ光り接戦制す

110メートルH 杤岡 優勝

杤岡武奎
（とちおか・たけい）
２００１年6月19日生まれ。京都府・乙訓高校出身。１８１㌢・76㌔。スポーツ健康科学部３年。

ハードルを跳び越える杤岡（撮影・家村有多）

注目!!ハードルの魅力

ハードルの魅力は、さらに上を追い求める探究心とスリル。１台目の入り方、ハードリングなど複雑な調節を要し、高い技術が求められる競技だ。１歩でも失敗すると、全てが崩れてしまう。しかし、１１０㍍＋10台のハードルを理想通りに攻略し、０・０１秒の世界で戦う面白さは、観客をも魅了する。

◆陸上競技部◆5月25～28日◆第99回関西学生陸上競技対抗選手権大会◆於・たけびしスタジアム京都◆杤岡が男子１１０㍍Hで関西優勝を成し遂げた。精鋭たちがそろい、接戦が予想された今大会。その中でも自分のレースだけに専念し、順調に予選を突破。決勝ではスタートダッシュで失敗するも、中盤から波に乗りライバルたちを退けた。自己ベストを幾度となくたたき出し、躍進を遂げる今季。２カ月後に控える全日本インカレを見据え、西日本インカレでの優勝とさらなるタイムの向上を図る。

激闘の43分

競技前の三好（鉄道4）

競歩で2位を獲得する

「競歩で優勝してチームに貢献する」。強い意気込みで臨んだ人生最後の関西インカレ。オフシーズンはけがに見舞われ苦しい期間が続いたが、可能な限り練習を続けてきた。

迎えた当日。太陽が照りつける中、ピストルの音が鳴り響く。レース序盤から暑さで体が思うように動かず、ペースをつかめない。さらに中盤、先頭との差が広がり苦しい展開となる。しかし、三好は主将としての意地を見せた。諦めず先頭集団を追い続け、４位から順位を上げて２位でゴールした。

優勝だけを考えて挑んだ今大会。しかし、悔いの残る結果となった。周りからの期待が大きかった分、応えられなかった悔しさは計り知れない。残り半年、チームを引っ張る存在としてさらに気を引き締め、一層強くなると意気込んだ。

優勝

４月上旬の京都インカレで個人記録を更新し、絶好調で迎えた今大会。初の関西優勝を果たし、歓喜に沸いた。

資格記録はエントリー選手21人中5位。タイムが近い選手が並び、試合の行方は混沌（こんとん）としていた。「自分のレースをすることだけを考えていた」。周りに影響されず、強みである後半の伸びを最大限に引き出すことだけを意識した。狙うは13秒台で優勝。予選から自己ベストを更新し、１着で決勝へと駒を進めた。

静寂に包まれたスタジアムに号砲が鳴り響く。スタートで出遅れ、早くもライバルを追う展開に。しかし、ここから真骨頂を見せた。中盤から勢いに乗り、急激な追い上げを見せる。力強くハードルを跳び越え、次々と敵の背中を捕らえた。ラストで競り合いとなるも、勝負強さが光り１着でゴール。向かい風１・２㍍の中、自己ベストタイの14秒06でレースを制した。

成長

栄冠をつかむまでの過程は容易ではなかった。１１０㍍Hを始めたのは高校１年生の時。初心者から競技を始めた杤岡は経験者である父の指導を受けながら、これまで技術を磨いてきた。強みは勢いを乗せたエネルギッシュな走り。今大会でも持ち味を生かし、自己ベストを２回マークした。

「まだまだ改善点のある走りをしていたので、自分でも今後が楽しみ」と明るい表情を浮かべる。自身の成長に喜びをあらわにした。

展望

「13秒台には乗れなかったが、優勝した瞬間はとてもうれしかった」。納得の結果で関西インカレを終えた。次は7月上旬に開催される西日本インカレを見据える。目標は13秒台に乗り、1位を勝ち取ること。今大会では照準のタイムに届かなかったが、目標達成に向けて確かな手応えを得た。

「３年生のうちに全国で勝負して、4年生でも高い目標と位置で戦っていきたい」とハイレベルな戦いに胸を弾ませた。西日本でも頂点に立ち、全国のライバルたちに勝負を挑む。【中田悠里】

◆男子１部１１０㍍H決勝◆

順	氏名	大学名	タイム
①	杤岡武奎	同志社	14.06
②	岩堀剛己	同志社	14.15
③	木下博翔	びわこ大	14.31
④	粟野聖瑳	大体大	14.37
⑤	岩元楓磨	大体大	14.54
⑥	太田彪真	びわこ大	14.61
⑦	田原佳悟	立命大	14.64
⑧	大村一斗	関学大	20.28

悔しさ糧に13秒台へ 2位

走行を終えた

杤岡に０・０９秒差で敗れるも力強い走りを見せ、２位を獲得。同志社がワンツーを独占し、チームを勢いづけた。

レース予選から関西の実力者たちと激突。混戦が予想されたが、弱点であるレース後半もバランスを崩さず駆け抜ける。勢いそのまま、組１着で決勝に進んだ。

多くの観客が見守る中、迎えた決勝。スタートダッシュに成功し、順調な走りを見せた。ハードルへの接触をものともせず、９台目まで先頭を走る。しかし、後半で杤岡に追い抜かれ、きん差で準優勝となった。

「自身の弱みが浮き彫りとなった」。ミスがなかったからこそ、後半の失速やハードル間リズムアップのぶれなど実力面での課題が露呈。悔しさをばねに夢の13秒台をかなえるべく、練習に努める。

岩堀剛己
（いわほり・ごうき）
２００１年10月2日生まれ。愛知県・名古屋高校出身。１７４㌢・66㌔。スポーツ健康科学部３年。

ハードルを跳び越える岩堀

広告募集中!!
ご相談・お見積承ります！
お問い合わせは下記連絡フォームまで
http://doshisha-atom.net/ask/
▶今出川編集局　〒602-8280
京都市上京区上立売新町西入ル西大路町 61-1
▶京田辺編集局　〒610-0394
京田辺市多々羅都谷 1-3

きょうと報知に同志社アトム参上
京都府のスポーツ情報満載のきょうと報知は、毎月1回、スポーツ報知（宅配・コンビニ販売分）に折り込まれます。
次回は7月29日(金)発行予定です。
※写真は5・6月号です。

SPORTS BULL
スポブルならいろんなスポーツのアレもコレもが
完全無料デスッ!
すべて無料
SPORTS BULL
バーチャル春高バレー TOP 特集 野球 高校野球
【サッカー部男子】予選通過も、リーグ開幕まで課題残る
CRAZY ATHLETES
NPB 速報&データ BREAKING NEWS & STATS
バーチャル高校野球 大学スポーツ eスポーツ
COLLEGE ATHLETE TV
SPBL
スポーツブル
App Store からダウンロード
Google Play で手に入れよう

レイアウト　橋本　純